

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-3	バスターミナルを中心としたレジリエントなスマートシティ拠点の機能評価の研究開発	広島大学 教授 藤原 章正	B

＜研究の概要＞

主に呉バスタプロジェクトを対象に、災害に強いレジリエントなスマートシティ拠点機能の計測・評価手法の開発を行う。マクロな視点からみた都市間アクセス機能、メゾな視点からみた都市圏交通マネジメント機能、ミクロな視点から見た拠点内移動機能に分けてフィールド実験を通じて検証する。

＜中間評価結果＞

実際に起きた災害対応を踏まえた研究であり、2つの社会実験は社会的意義も大きいと判断できるが、各々の取り組みが、最終的成果である「次世代バスタ」にどのように結びつくのかがわかりにくいことから、指摘事項に留意しながら現行の通り推進することが妥当であると評価する。全体研究テーマの中での各テーマの位置づけに留意して研究を進めていただきたい。

＜今後の研究計画・方法への指摘事項＞

- ・各々の取り組みが、「次世代バスタ」の導入戦略にどのように結びつくのかを、共同研究者による討議によって抽象的に導くのではなく、研究全体の体系と各サブテーマの位置づけを明確にして、具体的に示していただきたい。
- ・次世代バスタの導入戦略立案における発災後の時間経過を考慮したニーズ、有すべき機能の整理をしていただきたい。
- ・「バスタ」という都市施設の空間的プロトタイプについても、新宿や熊本などの既存のものに捉われず、地方都市ならではの新たな形について検討いただきたい。
- ・研究成果がバスターミナルの機能計測や評価方法に活かされるか不明確であり、研究開発を加速していただきたい。
- ・研究体制について、それぞれの専門性から鑑みて研究開発における役割分担が明確でないメンバーが含まれており明確にしていただきたい。
- ・特定の災害の事例の分析が中心となる傾向であるが、より汎用性・一般性のある研究開発を目指していただきたい。
- ・「集約型公共交通ターミナルの機能に関する研究」および「スマートシティ拠点・評価手法の開発」と実験的検証を連携させていただきながら、研究を進めていただきたい。
- ・研究費の算定について、積算精度が低く個別に具体的に検討し積み上げなおす等、効率的・効果的な研究遂行・費用削減に努めていただきたい。

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第42回新道路技術会議において審議したものである。